

提供日 2025/1/20
タイトル 公開講座「地震と火山と防災」
担当 静岡県公立大学法人 静岡県立大学
グローバル地域センター
連絡先 054-245-5600



静岡県立大学記者提供資料

2024年度 第7期講座「地震と火山と防災」を オンラインで開催します

静岡県立大学グローバル地域センターでは、標記のオンライン講座を開催します。
報道機関の皆様におかれましては、募集の告知に御協力をお願いします。

1 趣旨

本講座は地震・火山・防災について、「これだけは知ってほしい」情報を学ぶ講義に加え、東日本大震災を経験した語り部による「震災の経験と教訓が未来の命を守る力になる」講話があります。自然災害が起きてから「もっと準備できたのに」と思うのでは遅いと皆が気づいているはず。第7期の今回は、防災とウェルビーイングをテーマに取り上げ、「生き残るために」どうするか、「生き続けるために」にどうしたらよいか、を専門家や経験者から知識や経験を学び、防災と避難後の生活について考えています。

2 日時

2025年2月7日（金）・2月14日（金） いずれも19:30～21:00

※全2回の講座です。

3 開催方法・参加者

オンライン配信（Zoomウェビナー）/各回200名

※要・事前申込 申込方法はグローバル地域センターのホームページからご覧いただけます。

申込期限 第1回：2月6日（木）／第2回：2月13日（木）

4 プログラム（敬称略）

【第1回】 2/7（金）	講義	「震災後の生活で知って欲しいこと」 3.11 メモリアルネットワーク 語り部 浅野仁美
		「自然災害にどう備える?起きた後、何ができる?」 静岡県立大学グローバル地域センター自然災害研究部門 特任教授 楠城一嘉
【第2回】 2/14（金）	講義	「東日本大震災津波における栄養・食生活支援 ～培った経験を未来に繋ぐ～」 岩手県久慈保健所 主任栄養士 古舘 伸郎
		「避難所の環境改善で災害関連死を防ぐ ～イタリアから学ぶTKB48とは?～」 Jパックス株式会社 代表取締役 水谷 嘉浩

※各回とも講義終了後に質疑応答の時間を設定しております。

《コーディネーター》

静岡県立大学グローバル地域センター自然災害研究部門 特任教授 楠城一嘉

【本件に関するお問い合わせ先】

〒420-0839 静岡市葵区鷹匠3-6-1 もくせい会館2階

静岡県立大学グローバル地域センター

電話 054-245-5600

メールアドレス glc(ここに@を入れる)u-shizuoka-ken.ac.jp

2024年度
第7期講座
全2回

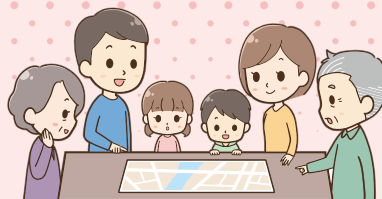


令和6年度 静岡県立大学健康
イノベーション教育プログラム連携講座

地震と火山と防災

～防災とウェルビーイング～

東日本大震災の語り部から学び、
自然災害の最新事情を
知る防災講座です。



要事前申込

参加無料

〈各回先着〉

200人

開催方法

オンライン配信(Zoomウェビナー)

※一家族・1アカウントでもご参加いただけます。
※視聴される際はWi-Fi環境が無制限になっているかを必ず事前にご確認ください。
※本講座の録音、録画、撮影はご遠慮ください。

開催日時

2025年2月7日(金)・2月14日(金)

【配信時間】19:30～21:00



第1回 2/7(金)

(敬称略)

19:35～20:05 「震災後の生活で知って欲しいこと」

▶3.11メモリアルネットワーク 語り部 浅野 仁美

20:05～20:35 「自然災害にどう備える?起きた後、何ができる?」

▶静岡県立大学グローバル地域センター自然災害研究部門 特任教授 楠城 一嘉

お申込はこちら



申込期限:2/6(金)

第2回 2/14(金)

(敬称略)

19:35～20:05 「東日本大震災津波における栄養・食生活支援
～培った経験を未来に繋ぐ～」

▶岩手県久慈保健所 主任栄養士 古舘 伸郎

20:05～20:35 「避難所の環境改善で災害関連死を防ぐ
～イタリアから学ぶTKB48とは?～」

▶Jパックス株式会社 代表取締役 水谷 嘉浩

お申込はこちら



申込期限:2/13(金)

コーディネーター

●静岡県立大学グローバル地域センター自然災害研究部門 特任教授 楠城 一嘉

申込方法

各講座の2次元コードまたはグローバル地域センターのウェブサイトから
ウェビナー登録をしてください。登録完了後に接続方法をご案内します。

グローバル地域センター

検索

<https://www.global-center.jp>

主催・お問い合わせ:

静岡県立大学グローバル地域センター 静岡県立大学「ふじのくに」みらい共育センター

TEL:054-245-5600 FAX:054-245-5603
<https://www.global-center.jp> E-mail: glc@u-shizuoka-ken.ac.jp

共催: 岩手県久慈保健所

7期目を迎えた「地震と火山と防災」は、防災とウェルビーイングをテーマに取り上げます。オンライン配信の利点を活かして日本中に本講座をお届けします。

「これだけは知ってほしい」情報を学ぶ講義に加え、東日本大震災を経験した語り部による「震災の経験と教訓が未来の命を守る力になる」講話があります。

自然災害が起きてから「もっと準備できたのに」と思うのでは遅いと皆さん気づいているはずですよ。専門家や経験者だからこそ伝えられる日ごろの備えの大切さを学び、防災行動へつなげるきっかけになればと思います。



講師プロフィール（敬称略）



第1回



語り部

浅野 仁美（あさの ひとみ）

3.11メモリアルネットワーク

東日本大震災では2～3mの津波で自宅は被災し全壊。当時、小学校5年生の娘と間一髪で自宅2階の屋根に上り助かった。その後、娘が通っていた小学校が1,700人の避難所となり6ヶ月間身を寄せた。町内会の役員ではなかったが、避難所のリーダーの1人となり、避難者、学校、地域で在宅避難をしていた町内会の方々と連携しながら避難所運営に携わった。避難所で出会った人々との縁で各地にて震災の体験を伝えている。



講師／コーディネーター

楠城 一嘉（なんじょう かずよし）

静岡県立大学グローバル地域センター
自然災害研究部門 特任教授

地震・火山・津波を研究し、防災啓発教育も得意とする地球科学者。今期は講師も務め、自然災害の研究からヒントを得た、家庭でできる防災の知恵について講義をする。主な著書の「地震と火山と防災のはなし（編著）」（成山堂書店）がある。

第2回



講師

古舘 伸郎（ふるだて のぶお）

岩手県久慈保健所 主任栄養士

盛岡大学短期大学部を卒業後、保育所や大病院を経て岩手県に入職。県立病院及び県庁・保健所等に管理栄養士として勤務し、令和2年度から現職。東日本大震災津波当時は沿岸の久慈保健所に勤務し、避難所や仮設住宅等での栄養・食生活支援を行う。元カヌー競技選手でNEW!!わかふじ国体（静岡国体）にも出場。（公社）日本栄養士会災害支援チーム（JDA-DAT）リーダー。



講師

水谷 嘉浩（みずたに よしひろ）

Jパックス株式会社 代表取締役

避難所・避難生活学会常任理事。京都工芸繊維大学で博士（工学）を取得。東日本大震災をきっかけに段ボールベッドを考案。雑魚寝を無くし、避難所の環境改善を通じて二次健康被害を減らす取り組みを始めると同時に、段ボール産業が災害時に避難所を支える防災協定の仕組みを構築し、全国に普及するよう努めている。また、同会常任理事の立場で避難所に関する研究活動や啓蒙活動を行っている。段ボールベッドに関する自治体との防災協定の発案者としても有名（2011年6月愛知県新城市から）。

コーディネーターご挨拶



東日本大震災の語り部や経験者の話を現地で聞き、南海トラフ地震など自然災害に対する日頃の備えの大切さを再確認するのに彼らの真実の声は役立つと気づきを得て本講座を企画しました。講師や語り部さんに質問できる時間もあり、防災に対して理解が深まる90分にします。

静岡県立大学グローバル地域センター
自然災害研究部門 特任教授 楠城一嘉

公益社団法人



3.11 メモリアル
ネットワーク
命をつなぐ 未来を拓く

3.11メモリアル ネットワークについて

2011年5月に宮城県石巻市で活動がスタート。フェーズの変化に伴い「震災支援の連携から、震災伝承の連携へ」活動をシフトさせながら、東日本大震災の経験と教訓を未来の世代へ伝え、甚大な被害を受けた岩手・宮城・福島（3県・広域）と地域（現場）の両方の視点を大切にしながら災害で命が失われない社会を目指す。

